

かけがえのない名大での日々

栄養士の受験資格が得られる大学は、道内に複数あります。

その中でも名大を選んだのは、少人数制の小さな大学であることや、自転車でどこにでも行けるような名寄市の規模感に惹かれたからです。

3年前の春、私は名寄市立大学の栄養学科に入学しました。私の目指す管理

とって宝物のように大切なものとなりました。

入学当初の私は、名寄を選んでよかったのか、自信を持っていませんでした。新型コロナウイルス対策のため、対面の授業は少なく、部屋の中でオンデマンドの授業を再生する日々。

なかなか自分を出せない性格もあって、クラスメイトと距離を縮めることができませんでした。

を離れての一人暮らしは寂しく、初めてのアルバイトにも戸

惑い、毎晩のように家で泣いていました。今思い返すと、そこまで落ち込む必要はなかったと感じますが、当時の私は全てを後ろ向きに考えてしまっていました。

しかし、感染対策が緩和されるにつれて対面の授業も増え、次第に楽しく話せる友人もできました。一人暮らしにも

少しづつ慣れ、学業とアルバイトのバランスも掴んで、自由な生活の楽しさを知りました。友人とご

飯屋さんを巡ったり、互いの家に遊びに行ったりする中で距離も縮まり、初めは後悔ばかりしていた大学生活が、どんどん楽しいものに変わっていききました。

今では、気の合う友人に恵まれ、講義のある日はもちろん、休みの日でも毎日のように一緒に過ごしています。課題やテスト勉強も、助け合いながら乗り越えてきました。また、



大学と企業がコラボした商品開発プロジェクトへの参加など、名大ならではの経験もすることができました。友人の家に泊まって夜中まで語り合ったり、お好み焼きパーティーをしたりと、大切な思い出が数え切れないほどあります。

そんな充実した大

学生生活も、残すところ半年となりました。名残惜しい気持ちでいっぱいですが、限られた時間を大切に、最後まで名大生としての日々を味わい尽くしたいと思えます。

栄養学科4年

小笠原千智